

早期薬学総合学習：誠の医療人入門

責 任 者・コーディネーター	臨床薬学講座薬学教育学分野 白石 博久 特任教授		
担当講座・学科(分野)	薬科学講座（分析化学分野）、生物薬学講座（機能生化学分野、生体防御学分野）、病態薬理学講座（分子細胞薬理学分野）、医療薬科学講座（薬物代謝動態学分野、衛生化学分野）、臨床薬学講座（地域医療薬学分野、情報薬科学分野、薬学教育学分野）		
対象学年	2	区分・時間数 (1 コマ 2 時間換算)	講義・実習 74 時間 (37 コマ)
期 間	通年		
単 位 数	2 単位		

・ねらい

薬学専門科目が本格的に始まった2年生として、地域医療・介護、医療倫理、災害医療に関わる様々な知識や課題を、事前学習・体験・討論・グループワークを通して学び、考えることで、「誠の医療人」を目指す自覚を確立できるようになる。

また、6年制薬学教育では、臨床の臨地実習として5年次に長期の実務実習（薬局・病院）が必修とされ、そのための基本的能力（知識・技能・態度）を適切に評価するための薬学共用試験（CBTとOSCE）が4年次に実施される。そこで、臨床業務に携わるために必須な全国共通の二つの試験、すなわち薬学共用試験と薬剤師国家試験への理解を深めることで、学習意欲を刺激できる。

さらに、製薬企業の工場を訪問し、製剤と創薬の現場を見学することにより、製薬業務とその社会的責任・倫理についての理解を深め、医療や医薬品を巡る社会的な動向について意識する態度を身につけることができる。

・学修目標

[1] 人の一生と医療に関わる生命倫理 （9 コマ）

- 1) 生と死、医療などに関わる倫理的問題を、生命倫理の諸原則等に基づき説明できる。
- 2) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性と難しさを説明できる。
- 3) 患者・患者家族・生活者の視点から、求められる医療人像やチーム医療のあり方について討議する。

[2] 地域医療を学ぶ （8 コマ）

★介護・福祉施設での患者とのコミュニケーションを体験する

- 1) 患者とコミュニケーションを取る目的と注意事項を説明できる。
- 2) 認知症患者の行動を知り、認知症の患者と接するときの心構えを説明できる。
- 3) 介護・福祉施設における薬剤師業務と薬剤師の役割を説明できる。
- 4) コミュニケーションを通して、患者にかかわり、好ましい関係を保つ。
- 5) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。（知識・態度）
- 6) 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。

★地域医療のあり方を学ぶ

- 7) 生活者本位の医療や介護の提供のあり方を説明できる。
- 8) 地域医療におけるファーマシューティカルケアを説明できる。
- 9) 患者本位の医療提供のあり方を検討する。

★未来の薬剤師像を描く（ドリームナビ）

10) 社会の中で貢献し活躍している自分の将来像を描ける。(知識・技能)

[3] 被災地と災害時の薬剤師の役割を学ぶ (11 コマ)

- 1) 東日本大震災について岩手県の状態を説明できる。
- 2) 東日本大震災について岩手県の復興状況を説明できる。
- 3) 災害時の避難所の運営の難しさを体験し、適切な運営方法について説明できる。
- 4) 災害時の薬剤師の役割に関して概説できる。
- 5) 災害時の薬局の役割について説明できる。
- 6) 災害時医療について概説できる。
- 7) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。
- 8) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。

[4] 薬学共用試験および薬剤師国家試験について考える (6 コマ)

- 1) SGL により薬学共用試験、薬剤師国家試験の仕組みを理解し説明できる。
- 2) グループで協力してまとめた成果を発表し、全員で情報を共有する。
- 3) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。
- 4) 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。
- 5) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。

[5] 医薬品製造業者の製造工程と品質管理の重要性、社会的責任を学ぶ (3 コマ)

- 1) 工場見学の意義と注意点を説明できる。
- 2) 製薬業務とその社会的責任、医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保について説明できる。

・薬学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)対応項目

B-1-1 薬剤師に求められる倫理観とプロフェッショナリズム、B-1-2 患者中心の医療、B-1-3 薬剤師の社会的使命と法的責任、B-2-1 対人援助のためのコミュニケーション、B-2-2 多職種連携、B-3-1 地域の保健・医療、B-3-2 医療・介護・福祉の制度、B-3-3 医療資源の有効利用、B-4-1 医薬品開発を取り巻く環境、B-4-2 医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保と薬害の防止、B-5-3 アウトカムの可視化

・学修事項

- (1) グループ討議におけるコミュニケーションのあり方
- (2) 生と死、医療などに関わる倫理的問題
- (3) 様々な死生観・価値観・信条
- (4) 求められる医療人像やチーム医療のあり方
- (5) 介護・福祉施設における薬剤師業務と薬剤師の役割
- (6) 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義
- (7) 医療の現場におけるコミュニケーションスキル
- (8) 生活者本位、患者本位の医療や介護の提供のあり方
- (9) 地域医療におけるファーマシューティカルケア
- (10) 社会の中で貢献し活躍している自分の将来像
- (11) 東日本大震災の被害と復興状況
- (12) 災害発災時の避難所設営
- (13) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割
- (14) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制
- (15) 薬学共用試験、薬剤師国家試験の仕組み
- (16) 製薬業務とその社会的責任、医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保

・この科目を学ぶために関連の強い科目

早期体験学習、多職種連携のためのアカデミックリテラシー、医療における社会・行動科学、心理学、医療面接の基礎

・この科目を学んだ後につなげる科目

チーム医療リテラシー、看護体験実習、医療倫理とヒューマニズム

・講義日程 (矢) 西 106 1-F 講義室 、東 302 3-A 実習室 、東 302 3-B 実習室

[1] 人の一生と医療に関わる生命倫理

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/10	金	2	生体防御学分野	大橋 綾子 教授	人の一生と医療に関わる生命倫理 (1)導入講義 1. 生と死、医療などに関わる倫理的問題を、生命倫理の諸原則等に基づき説明できる。 事前学修：1年次の倫理の講義の復習をしておくこと。 事後学修：講義プリントの復習を行うこと。
4/13	月	1	生体防御学分野	大橋 綾子 教授	人の一生と医療に関わる生命倫理 (2)課題の提示 教材視聴 1. 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性と難しさを説明できる。 事前学修：第1回講義プリントの復習を行うこと。 事後学修：指定課題の考察を各自行うこと。
4/13	月	2	生体防御学分野	大橋 綾子 教授	人の一生と医療に関わる生命倫理 (3)教材視聴 SGD 役割分担 1. 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性と難しさを説明できる。 事前学修：第1回講義プリントの復習を行うこと。 事後学修：指定課題の考察を各自行い、グループワークに備えること。
4/13	月	3	生体防御学分野	大橋 綾子 教授	人の一生と医療に関わる生命倫理 (4)SGD

					1. 患者・患者家族・生活者の視点から、求められる医療人像やチーム医療のあり方について討議する。 【グループワーク】 事前学修：指定課題の考察を行い、グループワークに備えること。 事後学修：グループ内で分担した作業を各自行うこと。
4/16	木	2	生体防御学分野 薬学教育学分野 生体防御学分野	大橋 綾子 教授 白石 博久 特任教授 錦織 健児 助教	人の一生と医療に関わる生命倫理 (5)ディベート形式 1. 患者・患者家族・生活者の視点から、求められる医療人像やチーム医療のあり方について討議する。 【グループワーク】 事前学修：ディベート形式での討議に備えて、グループ内で出た意見を整理しておくこと。 事後学修：ディベート形式を通じて学んだことの振り返りを行うこと。
4/17	金	1-2	生体防御学分野	大橋 綾子 教授	人の一生と医療に関わる生命倫理 (6) SGD 発表準備 1. 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性と難しさを説明できる。 2. 患者・患者家族・生活者の視点から、求められる医療人像やチーム医療のあり方について討議する。 【グループワーク】 事前学修：発表会の準備の仕上げを行うこと。 事後学修：発表会で学んだことを整理すること。
4/21	火	3-4	生体防御学分野 薬学教育学分野 生体防御学分野	大橋 綾子 教授 白石 博久 特任教授 錦織 健児 助教	人の一生と医療に関わる生命倫理 (7) (8)発表会 1. 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性と難しさを説明できる。 2. 患者・患者家族・生活者の視点から、求められる医療人像やチーム医療のあり方について討議する。 【グループワーク】 事前学修：発表会の準備の仕上げを行うこと。 事後学修：発表会で学んだことを整理すること。

[2] 地域医療を学ぶ

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/28	火	2	薬学教育学分野	白石 博久 特任教授	介護体験実習オリエンテーション 実習の目的と注意事項を学ぶ (併せて、[4] 被災地と災害時の薬剤師の役割を学ぶ、のオリエンテーションも行う) 1. 患者とコミュニケーションをとる目的と注意事項を説明できる。 【双方向授業】【ICT(moodle)】 事前学修：介護が必要な疾患や経管栄養や経静脈栄養について調べておくこと。 事後学修：実習までに準備しておくことをまとめておくこと。
		3	薬学教育学分野	白石 博久 特任教授 鱒沢 陽香 非常勤講師	認知症サポーター研修 認知症患者への係わり方を学ぶ 矢巾町地域包括支援センター 1. 認知症患者の行動を知り、認知症の患者と接するときの心構えを説明できる。(態度) 【ロールプレイ】【ICT(moodle)】 事前学修：認知症サポーター研修用のビデオを見ておくこと。 事後学修：研修会の感想文を提出すること。
5/12 ～ 5/14	火 ～ 木	1-4	生体防御学分野 衛生化学分野 地域医療薬学分野 分子細胞薬理学分野 情報薬科学分野 生体防御学分野 情報薬科学分野	大橋 綾子 教授 杉山 晶規 教授 松浦 誠 教授 高橋 巖 特任講師 佐京 智子 助教 錦織 健児 助教 氏家 悠貴 助教	介護・福祉施設で患者とのコミュニケーションを体験する (グループ A,B,C に分かれて、3 日間のいずれか 1 日で行う。) ・患者とコミュニケーションする。 ・病院食と輸液の味見を体験する。 1. 介護・福祉施設における薬剤師業務と薬剤師の役割を説明できる。 2. コミュニケーションを通して、患者にかかわり、好ましい関係を保つ。(態度) 3. チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度) 4. 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。 【フィールドワーク】【体験型学習】【プレゼンテーション】

					事前学修：事前課題の内容を見直しておくこと。コミュニケーションスキルを復習しておくこと。 事後学修：実習で体験した内容をまとめておくこと。各自で感想文を作成し提出すること。[4] 被災地と災害時の薬剤師の役割を学ぶ、の5/15 3,4 限のグループ発表の際にまとめて発表する。
10/5	月	4	衛生化学分野 薬学教育学分野	杉山 晶規 教授 白石 博久 特任教授	未来の薬剤師像を描く（ドリームナビ） 薬剤師等の医療人として活躍している将来像を思い描き、それを写真や絵を使ってコラージュで表現する 1. 社会の中で貢献し活躍している自分の将来像を描ける。（技能） 【双方向授業】 事前学修：コラージュ作成のため、あらかじめ、自分の夢・将来像を考え、それを表す写真や絵を収集しておくこと。 事後学修：作品（プロダクト）を各自で作成し、次回に提出できるように準備しておくこと。
10/19	月	4	衛生化学分野 薬学教育学分野	杉山 晶規 教授 白石 博久 特任教授	未来の薬剤師像を描く（ドリームナビ） 1. 社会の中で貢献し活躍している自分の将来像を描ける。（技能） 【プレゼンテーション】【双方向授業】 事前学修：作品（プロダクト）提出に向け、準備をしておくこと。 事後学修：作品（プロダクト）を各自で作成し、moodle 上に提出すること。

〔 3 〕 被災地と災害時の薬剤師の役割を学ぶ

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
5/11	月	1,2	薬学教育学分野 分子細胞薬理学分野 情報薬科学分野	白石 博久 特任教授 高橋 巖 特任講師 佐京 智子 助教	被災地と災害時の薬剤師の役割を学ぶ・避難所運営を体験する。 1. 災害時の避難所の運営の難しさを体験し、適切な運営方法について説明できる。 【ロールプレイ】 事前学修：あらかじめ指定されたテーマに関してグループ内で分担して資料を収集しておくこと。

		3	薬学教育学分野 生体防御学分野 分子細胞薬理学分野	白石 博久 特任教授 大橋 綾子 教授 高橋 巖 特任講師	被災地と災害時の薬剤師の役割を学ぶ ・沿岸被災地について事前学修する。 1. 東日本大震災について岩手県の状況を説明できる。 2. 東日本大震災について岩手県の復興状況を説明できる。 【グループワーク】 事後学修：作成したプレゼン資料を見直しておくこと。
5/12 ～ 5/14	火 ～ 木	1-4	薬学教育学分野 薬学教育学分野 薬学教育学分野 薬学教育学分野 情報薬科学分野 分子細胞薬理学分野 情報薬科学分野	白石 博久 特任教授 湊谷 寿邦 非常勤講師 松橋 昌平 非常勤講師 金野 良則 非常勤講師 西谷 直之 教授 高橋 巖 特任講師 佐京 智子 助教	被災地と災害時の薬剤師の役割を学ぶ (グループ A,B,C に分かれて、3 日間のいずれか 1 日で行う。) ・沿岸被災地を訪問し、行政や薬剤師の説明を聞く(3～4 限)。 ・沿岸被災地の現状を把握する。 1. 被災地の震災当時の状況を説明できる。 2. 被災地の現状を説明できる。 3. 災害時の行政の役割を説明できる。 4. 災害時の薬剤師の役割を説明できる。 【フィールドワーク】 事前学修：各グループでまとめた資料を見直しておくこと。コミュニケーションスキルを復習しておくこと。 事後学修：現地の資料をグループ内で分担してまとめておくこと。
5/15	金	1,2	薬学教育学分野	白石 博久 特任教授	被災地と災害時の薬剤師の役割を学ぶ ・沿岸被災地についてまとめる。 1. この 1 週間で学んだことを発表することができる。 【グループワーク】 事前学修：これまでに集めた資料を整理しておくこと。 事後学修：作成したプレゼン資料を見直しておくこと。
		3,4	薬学教育学分野 生体防御学分野 分子細胞薬理学分野 薬学教育学分野	白石 博久 特任教授 大橋 綾子 教授 高橋 巖 特任講師 熊谷 明知 非常勤講師	被災地と災害時の薬剤師の役割を学ぶ ・沿岸被災地についてまとめる。 1. 災害時の薬剤師の役割に関して概説できる。 【プレゼンテーション】 事前学修：午前中の討議を振り返っておくこと。 事後学修：各自で感想文を作成し提出すること。

[4] 薬学共用試験および薬剤師国家試験について考える

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/28	火	4	薬物代謝動態学分野	幅野 渉 教授	概要説明、テーマ設定 1. 薬学共用試験、薬剤師国家試験の仕組みを理解し、説明できる。 事前学修：薬学共用試験、薬剤師国家試験について、予め調べておくこと。 事後学修：グループで話し合ったことを個人的に整理しておくこと。
5/8	金	3	薬物代謝動態学分野	幅野 渉 教授	テーマの選定・確認、資料調査 1. 薬学共用試験、薬剤師国家試験に関する適切な資料を収集することで、薬学共用試験、薬剤師国家試験の仕組みを理解し、説明できる。 【グループワーク】 事前学修：前回グループで話し合ったことを整理しておくこと。 事後学修：収集した資料やグループで話し合ったことを個人的に整理しておくこと。
5/20	水	2	薬物代謝動態学分野	幅野 渉 教授	テーマ公表、資料調査 1. 薬学共用試験、薬剤師国家試験に関する適切な資料を収集することで、薬学共用試験、薬剤師国家試験の仕組みを理解し、説明できる。 【グループワーク】 事前学修：前回の調査結果を整理しておくこと。 事後学修：収集した資料やグループで話し合ったことを個人的に整理しておくこと。
5/22	金	3	薬物代謝動態学分野	幅野 渉 教授	資料調査、取りまとめ、発表準備 1. SGLにより薬学共用試験、薬剤師国家試験を認識し、説明できる。 2. グループで協力してまとめた成果を発表し、全員で情報を共有できる。 【グループワーク】 事前学修：前回の調査結果を整理しておくこと。 事後学修：収集した資料やグループで話し合ったことを個人的に整理しておき、次回の発表に備えること。
6/10	水	2,3	薬物代謝動態学分野	幅野 渉 教授	全体発表会 1. 適切な聴き方、質問をすること

					で、相手の考えや感情を理解するように努める。（技能・態度） 2. 適切な手段により自分の考えを相手に伝えることができるようになる。（技能・態度） 3. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができるようになる。（知識・技能・態度） 【プレゼンテーション】 事前学修：グループで作成したプレゼンテーションファイルに基づいて発表できるように準備しておくこと。 事後学修：他のグループの発表について、個人的に振り返ってみること。
--	--	--	--	--	---

[5] 医薬品製造業者の製造工程と品質管理の重要性、社会的責任を学ぶ（工場見学）

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
9/24	木	5	分析化学分野	藤本 康之 准教授	薬学実習と工場見学のガイダンス 1. 薬学実習・工場見学の意義と注意点を説明できる。 事前・事後学修：実習と工場見学の注意点を確認し、準備を整える。
11/19	木	1,2	分析化学分野 機能生化学分野	藤本 康之 准教授 関谷 瑞樹 教授	工場見学【フィールドワーク】 1. 製薬業務とその社会的責任・倫理について説明できる。 2. 薬学部で学ぶ知識や手技が現場において重要であることを説明できる。 事前学修：見学先の企業理念や製造している医薬品について調べる。 事後学修：工場で見聞したことと、これまでに大学で学んだことを関連付けつつ報告書を作成する。

・ディプロマポリシーとこの科目の関連

1. 薬剤師として医療に携わる職業であることを理解し、高い倫理観と豊かな人間性、及び社会の変化に柔軟に対応できる能力を有しているもの。	◎
2. 地域における人々の健康に関心をもち、多様な価値観に配慮し、献身的な態度で適切な医療の提供と健康維持・増進のサポートに寄与できるもの。	◎
3. チーム医療に積極的に参画し、他職種の相互の尊重と理解のもとに総合的な視点をもってファーマシューティカルケアを実践する能力を有するもの。	◎
4. 国際的な視野を備え、医療分野の情報・科学技術を活用し、薬学・医療の進歩に資する総合的な素養と能力を有するもの。	○

・評価事項とその方法

下記の配点に従い、レポートやプロダクト、グループ発表、参加態度などから総括評価を行う。レポートやプロダクトに関しては、提出後に添削や採点等を行い、適宜、フィードバックを実施する。正当な理由のない欠席については認めない。

- [1] 人の一生と医療に関わる生命倫理：新聞作成（10%）、グループ発表（10%）、態度（5%）
 [2] 地域医療を学ぶ：4/28 のレポート（5%）、5/12～14 のレポート（5%）、5/15 の発表（[4] の発表と合同）（5%）、10/19 のプロダクト（5%）。
 [3] 被災地と災害時の薬剤師の役割を学ぶ：5/11 のグループ発表（5%）5/15 のグループ発表（10%）、終了後のレポート（10%）、態度（5%）
 [4] 薬学共用試験および薬剤師国家試験について考える：グループ発表（10%）、態度（5%）
 [5] 工場見学：レポート（10%）

学修目標	学修事項	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
[1]	12-4	1,2,3,4		10			10	5(態度)	25
[2]	1, 5-10	1,2,3		15			5		20
[3]	1, 11-14	1,2,3		10			15	5(態度)	30
[4]	1, 15	1, 4					10	5(態度)	15
[5]	16	1, 4		10					10
合計				45			45	10	100

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	薬学生・薬剤師のためのキャリアデザインブック ver.3	西鶴 智香	薬事日報社	2025
参	はじめるとりくむ災害薬学	名倉弘哲	南山堂	2019

参	東日本大震災：薬剤師の活動記録：その時、薬剤師は何をしたか	岩手県薬剤師会	岩手県薬剤師会	2013
参	ドキュメント東日本大震災 そのとき薬剤師は医療チームの要になった	日経ドラッグインフォメーション 東日本大震災取材班	日経 BP 社	2011
参	頭を鍛えるディベート入門 発想と表現の技法	松本茂	講談社	1996
参	薬学生・薬剤師のためのヒューマニズム 改訂版	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会	羊土社	2019
参	スタンダード薬学シリーズ Ⅱ-1 薬学総論Ⅱ 薬学と社会 第2版	日本薬学会 編	東京化学同人	2022
参	モデル・コア・カリキュラムで学ぶ薬学（新スタンダード薬学シリーズ 第1巻）	新スタンダード薬学シリーズ編集委員会 編	東京化学同人	2024
参	社会と薬学（新スタンダード薬学シリーズ 第2巻）	新スタンダード薬学シリーズ編集委員会 編	東京化学同人	2024

・特記事項・その他

・体験型学習のため自ら進んで積極的に参加することが望ましい。事前・事後学修には、各コマあたり 30 分程度を要する。

・[1]～[5]の実施内容の詳細については、各担当教員が別途指示する。moodle からのメール連絡や掲示をよく見て対応すること。

・当該科目に関連する実務経験の有無 有

地域の病院や薬局に勤務する薬剤師や、行政と連携した研修を通じて、地域の課題解決の在り方を学ぶ。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	各担当教員所持のノートパソコン、タブレット	各 1	講義資料の提示